

沖縄発

新たな飛躍

コロナ禍で焦りばかり募る中、
地域や地元企業に詳しい
参与さんの存在は、
とても心強く安心できました。



株式会社ダイコー沖縄
配送2課 ルート配送員

宮城 盛裕さん

1966年5月3日沖縄県那覇市生まれ。1991年沖縄国際大学卒業後、婚礼ビデオの撮影会社、金融関係の印刷会社、写真・カメラ用品の卸会社を経て、2011年から大手ブライダル企業でウェディングの映像や写真データの出力、品質管理に携わる。得意分野でもあり、人生の大切な瞬間の写真を提供できることに誇りを感じていたが、コロナ禍によって予想もしていなかった事態に。「以前から自動車好きで、休日はYouTubeの自動車系動画を見て気分転換しています」。

マッチング 3つのポイント



本人

誠実で実直、穏やかな人柄

職種転換をする覚悟

新たな職場への適応力

受入企業

配送員の慢性的な不足

誠実に取り組む姿勢を重視

コロナ禍でニーズが増加

センター

地元根ざした情報収集力

相談者に対する親身な姿勢

多角的なアドバイス



先の見えない転職活動の中で職種転換を決意

二〇二〇年、大手ブライダル企業で映像写真業務に長年携わってきた宮城さんに、コロナ禍の影響が直撃した。会社は売上が見込めず事業を縮小することに。退職を決意した宮城さんは、セカンドキャリア制度で紹介された民間の人材サービス会社と産業雇用安定センターに登録し、転職活動をスタート。「コロナ禍に加え、年齢的にも状況は厳しいだろうと予想はしていましたが…」と、暮れも押し迫り不安でいっぱいの中、センターでの最初の面談に臨んだ。

当初、参与はキャリアを生かした仕事を探すも映像関係の求人はなく、印刷関係も不調だったという。そこでコロナ禍の影響が少ない医療関係への挑戦を提案。「最初に応募した薬局は年齢で見送られました。直後に私どもの所長から医療卸事業を展開する㈱ダイコー沖縄を勧められ、宮城さんに打診しました」と参与。

ダイコー沖縄は事業が順調に推移し、配送員不足が続いていた。同社の親泊センター長は、「コロナ治療薬や検査薬をお届けしなければならず、一人でも多く配送員が欲しいという状況でした」と当時を振り返る。一方、離職から七カ月以上経っていた宮城さんは、「経験のない配送の仕事でしたが、焦りも強くなっていましたし、藁をも掴む思いでチャレンジしてみることに決めました」。

誠実な人柄と適応力が認められて

宮城さんはダイコー沖縄のホームページを見て、創業七年以上という歴史ある会社で、社風もしつかりしていることを知り、この会社なら残りの働ける間、人生を安心して託せると感じたそう。参与は、通勤や給与等の条件について宮城さんの意向を最終確認し、すべて本人納得の上で応募。翌週に面接という流れになった。「宮城さん



のキャリアをみても、過去に違う職種も経験して適応力はあるので、ご本人が覚悟を決められたのならもう大丈夫だろうと思いましたが」と、参与はうまくいくことを確信していたようだ。

このとき、実は親泊センター長のほうが、全く違う業界からの職種転換ということで、正直難しいと感じていたらしい。「面接を通して宮城さんの誠実な人柄が伝わってきたので、そこに大きな魅力を感じ、採用決定に至りました」。翌日センターに結果が伝えられ、そして宮城さんへ。「決まりました、おめでとーございませぬ！良かったですね」という参与の言葉とともに、コロナ禍に振り回された苦難の日々がようやく終わりを告げた。

「利用した民間の人材会社が地元企業とのつながりが希薄だったため、すごく心配しましたが、参与さんいろいろな親身になっていただき、地元出身の方ということもあって安心して心を許すことができ、気持ちも落ち着きました。地元で根ざしたセンターさんに登録していて本当に良かったです」。宮城さんの言葉は、満足ゆく就職ができた感謝と安堵感に満ちていた。

病気で困らている方の役に立てる喜び

入社後、宮城さんは倉庫内でのピッキング業務、先輩に同行しての配送業務を経験。二カ月を経た頃、配送二課のルート配送員として独り立ちした。「那覇以外の道をあまり知らず、地理的知識には自信ありませんが、先輩方がフレンドリーかつ丁寧に教えてくれるので助かっています」。先日、担当地域で事故が発生した際には、渋滞を回避できるように電話が代わる代わる掛



配送業務の様子

かってきたそうで、会社の連携の素晴らしさに感動したという。最近やっと準備し出発し戻りし休憩等の時間配分を上手くできるようになったと笑う宮城さん。その表情が日々の充実ぶりを物語っている。

「医療用医薬品は商品名を覚えるだけでも大変で、有効期限、ロット番号、どこへお届けしたかまで確認しますから、そういう細かな点に最初は苦労されたと思います。今は時間配分も含めスムーズにできていますので、安心して任せられています」と親泊センター長の評価も高い。この仕事を通して、薬が人に届くまでの物の流れを初めて知ったという宮城さん。「微力ですが、最終的に病氣や健康でお困りの人たちの一助に自分もなれているのかなと思うと嬉しいですね」。新しい仕事に、これまで味わったことのないやりがいを感じているようだ。

過去の経歴に固執せず視野を広げることが大切

宮城さんの目下の目標は二つ。「先輩たちのようにひと目でお得意先の商品構成がわかるようになること、そしてお客様と挨拶以外のコミュニケーションができるようになることです。それができれば、よりやりがいも深まってくれと思っています」。

そんな宮城さんに、改めて転職活動全般を振り返ってもらった。「誰しも今までの経験を生かしたいですが、思い切った違う分野の仕事に挑戦してみても、と参与さんにアドバイスをいただいたことが良い結果につながったので大変感謝しています。地域の状況と地元企業をよく知っている参与さんに親身になっていただいたことが何より心強かったです」。最後に転職活動をされる方へ、宮城さんからメッセージをいただいた。「職を失うことは不安に駆られますが、今までやってきた職種だけに固執せずに視野を広げて、センターさんを信じて対応してもらえば新しい道が切り開けるのではないかと思います」。

株式会社ダイコー沖縄
管理本部 物流センター センター長
親泊 正順さん

もっと経験を積んでさらに頼れる存在に

ダイコー沖縄では、さまざまな媒体に求人広告を出していますが、なかなか配送員の応募がありません。産業雇用安定センターさんには、当社の配送員不足をご理解いただき、定期的に情報をいただいております。ありがとうございます。宮城さんについては、以前センターさんから複数名、身元がしっかりしている方の紹介を受けたことがあったため、今回も全く知らない方を面接するわけではなく、既にセンターさんと面談を重ねた良い人材を紹介していただけたという安心感がありました。

今後宮城さんに期待することとしては、現在、嘉手納町、読谷村のエリアで約四十軒のお客様を担当していただいておりますが、例えばお隣の北谷町や沖縄市など担当外のエリアも把握して、配送範囲を徐々に広げていってほしいという希望があります。どうしても急なお休みなどが出て、そのときいる人数でやりくりしなければいけないケースが発生しますので、そうした場合に、幅広いエリアをお任せできるように、経験を積んでいっていただけたらと思っています。



株式会社 ダイコー沖縄
〒901-2223
沖縄県宜野湾市大山7丁目9-2
TEL: 098-890-2111 (代)
FAX: 098-890-2220
●設立/1951年2月14日
●従業員数/196名
<https://www.daico-okinawa.co.jp>

